

庄原市行政評価シート

平成 28 年度評価

事務事業名		庄原市高齢者世帯雪下ろし支援補助金			
実施期間	平成 23 年度 ~ 平成 年度 (終期の設定のない場合は、終期を空白)	所管課	高齢者福祉課		

長期総合計画	04-02-03	心と体の健康づくりで命が輝くまち(保健・福祉・医療)	高齢者の自立支援	自立を支える地域づくりの推進	
予算科目	会計 01 一般会計	目 02 老人福祉費	款 3 民生費	項 1	社会福祉費

対象者	高齢者	対象者数など	
根拠法令・計画等	庄原市高齢者世帯雪下ろし支援補助金交付要綱		
HPアドレス			

実施目的	高齢者世帯の雪下ろしに対する支援として予算の範囲内で補助金を交付し、高齢者の降雪期における在宅での安心な生活を確保しその福祉の増進を図る
事務事業の概要	<p>1 補助対象者 市内に住所を有し現に居住している75歳以上の高齢者のみで構成する市民税非課税の世帯。ただし、次のいずれかに該当する者を含む場合においても対象。 ①1級から4級までの身体障害者手帳所持者 ②〇Aから〇Bまでの療育手帳所持者 ③1級又は2級の精神障害者保健福祉手帳所持者 ④15歳未満の者</p> <p>2 補助対象経費 雪下ろしを行う業者等へ依頼し、現に居住している住宅の屋根からの雪下ろし及び下ろした雪の除去又は落ちた雪の除去に要した経費とする。</p> <p>3 補助金の額 補助対象経費の3分の1以内の額とし、同一年度内において37,000円を限度とする。</p>

年度別実績概要	
平成 25 年度	補助金交付件数14件(西城7件、高野6件、比和1件)
平成 26 年度	補助金交付件数15件(西城6件、高野6件、比和3件)
平成 27 年度	補助金交付件数34件(西城12件、東城1件、口和2件、高野11件、比和8件)

実績指標

(単位:千円)

事業費 (インプット)	項目	内容	H 25	H 26	H 27	合計
	事業費	補助金		127	128	317
						0
						0
		事業費計	127	128	317	572
財源	国県補助金					0
	地方債					0
	その他					0
	一般財源		127	128	317	572

実績 (アウトプット)	指標名称	単位	基準値	H 25	H 26	H 27	合計
	1	補助金交付額	千円		127	128	317
2							0
3							0
成果 (アウトカム)	1	補助金交付件数	件	14	15	34	63
	2						0
	3						0
備考							

事務事業名	庄原市高齢者世帯雪下ろし支援補助金	所管課	高齢者福祉課
-------	-------------------	-----	--------

評価項目		所管課評価	市民意見	評価委員会	評価分布			
分布は、A+1,B+0,C-1で総回答数で割り、小数点以下四捨五入。ただし、A-C又はC-AがBより多い場合はA,Cに補正する					市民意見		評価委員会	
優先度		A	A	A	分布	平均	分布	平均
A	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が高い事業である。				7		7	
B	同じ分野の他の事業と比較し、優先度は中くらいの事業である。				1		0	
C	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が低い事業である。				0	1	0	1
認知度		B	C	B	分布	平均	分布	平均
A	対象者以外にも、おおむねの内容は知られている事業である。				0		1	
B	対象者には、おおむねの内容は知られている事業である。				3		5	
C	一部の者を除き、事業があることすら知られていない。				5	-1	1	0
有効性		A	A	A	分布	平均	分布	平均
A	費用に対して、効果・成果が高い事業である。				6		7	
B	費用に対して、効果・成果が中くらいの事業である。				2		0	
C	費用に対して、効果・成果が低い事業である。				0	1	0	1
受益者満足度		A	B'	A	分布	平均	分布	平均
A	受益者(対象者)は、満足している事業内容である。				0		4	
B	どちらともいえない。				0		3	
C	受益者(対象者)が、満足できない事業内容である。(改善要望がある ほか。)				0	#DIV/0!	0	1
市民(納税者)納得度		B	B'	A	分布	平均	分布	平均
A	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外も納得できる事業である。				4		4	
B	どちらともいえない。				2		3	
C	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外は納得できない事業である。				2	0	0	1
代替性		B	A	B	分布	平均	分布	平均
A	収益性や技術面から民間での実施が難しく、市が実施すべき事業である。				5		1	
B	民間での実施も可能であるが、公共性・公平性などから市が関与すべき事業である。				3		6	
C	市の関与は委託や助成とし、民間等での実施を検討すべき又は市が関与する必要はない事業である。				0	1	0	0
まちづくり基本条例適合性		B	B	B	分布	平均	分布	平均
A	市民(団体等を含む。)の自立を促進する事業である。				3		1	
B	市民の自立促進までは期待できないが、条例の趣旨(市民が主役のまちづくり)に沿った事業である。				4		6	
C	条例の趣旨に沿った実施形態となるよう、手法・内容を見直す(終了を含む。)事業である。				1	0	0	0
所管課評価		現行どおり						
評価視点	人口の減少、高齢化の進展に伴い、高齢者のみの世帯が増加し、降雪期には高齢者が自ら屋根に上り、雪下ろしなどの除雪を行わざるを得ない状況が生じている。本事業は、降雪期における高齢者の安全・安心を確保するために必要性が高いと考えられるため、現行制度をこれまでどおり継続することについて意見を求める。							
所管課が課題と考える内容	平成23年度の事業実施から補助要件や補助額は変更されておらず、利用者の負担や料金等の実態・妥当性について、今一度検討が必要と思われる。							

事務事業名	庄原市高齢者世帯雪下ろし支援補助金	所管課	高齢者福祉課
-------	-------------------	-----	--------

市民意見(プラモニ)		※市民意見は、意見数集計のみを評価とします。(プラモニとしての総括評価はありません。) ※全意見は、ホームページに掲載しています。				
意見数分布	現行どおり	拡充	縮小	終了	その他の見直し	総回答数
	5	3	0	0	0	8
主な意見	<p>【現行どおり】</p> <p>いずれにしても、こういった制度がなくなると高齢者の方(特に一人暮らしの人など)は心細くなるのではと思います。私たちの自治会でも依頼があったら頼まれて除雪を役員のほうで対応させていただいていますが、依頼する側も頼まれる側も安心して行える環境が必要だと思います。料金などの妥当性には、寒冷期ということも十分考慮されることを望みます。</p> <p>雪の少ない地域への移住も検討されているのか知りたいです。</p>					
	<p>【拡充】</p> <p>補助条件を緩和しても良いと思います。(年齢・限度額・補助金割合・市民税非課税) 年齢は若くても実質的に困難な方もおられるのでは？ 一件当たりの平均補助金が1万円以下なのでもっと件数を増やしても良いのでは？ 屋根の雪下ろし中の事故は多発しておりますし、高齢者になると特に危険ですし体力的にも大変だと思います。地域で取り組めればそれは良い事ですけど高齢化が進む中で地域では困難になると思います。 全体の金額も少ないし、もっと困っている人に活用してもらえようにしても良いと思います。</p>					

行政評価委員会評価	現行どおり	※行政評価委員会の摘録(会議内容)は、ホームページに掲載しています。
------------------	--------------	------------------------------------

総括意見	降雪量の多い当市では、冬季の雪下しが必要であり、引き続き、高齢者の降雪期における在宅での安心な生活を確保するため、現行どおり実施されたい。ただし、限度額等の拡充検討を状況・年度に合わせて考慮することを附帯事項とする。
------	--

▲ ※委員会における最終的な評価として総括したものであり、最も分布の多い評価を優先するものではありません。

評価分布	現行どおり 4	拡充 2	縮小 0	終了 0	その他の見直し 1
------	------------	---------	---------	---------	--------------

各委員の意見	<p>【現行どおり】</p> <p>①庄原市は積雪地帯でもあり、積雪による家屋の倒壊、損傷等の被害が毎年ある中で、屋根の雪下ろしは必要不可欠な地域になっています。高齢者世帯ではこの雪下ろし等の作業が困難な世帯も多く、高齢者の安心安全のため適切な事業と考えます。</p> <p>④本来 自分の家の事は自分達で対処する、お隣さんや地域で助け合って対処する事ではありますが、重労働であり危険を伴う作業なので、対応が可能な業者さんに依頼するしかないように思われます。そしてその支援は必要だと思います。今後は補助金交付だけでなく、安全な手段方法を探る必要もあると思います。</p> <p>⑤高齢者が地域で生活するために必要な事業であるが、雪下ろしにかかる費用が非課税世帯の方に大きな経済的な負担となる点に気がなります。様々な家族のニーズ(希望や困り事)があると思われるので、他の福祉制度を含めて、必要な支援につながるよう配慮していただきたいと思います。個々の暮らし方や思いがあるので、簡単には言えませんが、地域で長く暮らすために、安心できる地域や住宅への転居(冬季だけでも)などの方策も充実すべきだと思います。</p> <p>⑦地域に住み続けてもらうため、行政として必要な経費と思う条件の緩和、金額の上積みも考えてほしい。</p> <p>【拡充】</p> <p>②年により降雪量が違い利用件数に差異がありますが、豪雪地域では、効果的な事業だと思われます。補助対象者や補助対象経費については現行通り事業を継続することについては必要に思われますが、降雪量の多い年のことを考えると豪雪地域においては、補助金の限度額を高く設定しても良いのではないかと考えます。</p> <p>⑥年齢制限(75歳以上)が厳しすぎるのではないのでしょうか。高齢者のみ世帯が増えている中、屋根から落ちるなど事故が生じた場合、医療費や地域活動の継続などといった全く他の分野にもダイレクトに悪影響が出るおそれがあります。また、異常気象が珍しくなくなっている昨今、短期間にドカ雪が降る可能性も増しており、年間の利用金額制限がネックになることを危惧します。</p> <p>【拡充・縮小以外の見直し】</p> <p>③個人での請負は出来ないとの説明であったが、豪雪状況下では要望世帯が集中することが予想される。よって、個人・法人問わず事業所(個人事業主)であれば依頼できるよう見直しされたい。</p>
--------	--

今後の事業実施の方向性	現行どおり	
--------------------	--------------	--

詳細	雪深い中山間地域での雪下しを深刻な問題としてとらえ、現行どおり、事業を継続する。在宅高齢者が冬期間も安心して生活ができるよう、引き続き、本事業の市民啓発及びニーズにあった予算措置を行い、事業の見直しも検討する。
----	---

備考	
----	--